



小諸市重要無形民俗文化財

健速神社例大祭

開催



受け継がれる伝統

小諸の祇園 健速神社例大祭

7月13日、伝統ある健速神社例大祭が盛大に開催された。健速神社は、荒神と呼ばれる健速須佐之男命を祀る神社であり、その例大祭は江戸時代以前から「小諸の祇園」として、五穀豊穡と無病息災を願い、人々に親しまれてきた。

毎年7月上旬から中旬にかけて虫祭・風祭・八丁注連張り・宵祭・神輿練りなど、一連の神事が執り行われるが、勇壮な神輿練りは迫力があり、とりわけ人気が高い。文豪・島崎藤村の「千曲川のスケッチ」にも「十三日の祇園」として、例大祭の描写は登場している。人々の祈りと先人の想いが息づくこの祭りは、小諸の夏を象徴する伝統行事・文化として、明日へと受け継がれている。



例大祭当日、祭神須佐之男命の御霊が神輿に遷された後、氏子である本町区・田町区・六供区を巡行した。担ぎ手36人の勇壮な神輿練りに、沿道からは大きな声援と惜しみない拍手が送られた。今年の例大祭も、神輿関係者・観客の気持ちの一つとなる、最高の一日となった。

■例大祭当日の主な行程

〔宮出し・石段下り〕眠っている祭神を呼び起こすための儀式で、左回りに担ぎ手が神輿を回す。また、500kgを超えると言われる六角神輿が神社の石段を下り降りる姿も圧巻である。

〔水掛神事〕五穀豊穡を願い、臼の上に降ろされた神輿を担ぎ手が左回りに回し、周囲の総代が水を掛ける雨乞いの神事。

〔渡し台神事〕1675年から285年間行われてきた、神輿引渡しの儀の名残の神事。

〔仮宮納め〕「ヨイトヨイト」の掛け声とともに、神輿と担ぎ棒を結ぶ綱を切りながら仮宮へと神輿は向かい、例大祭は幕を下ろす。



①総代を先頭に駆け下り、②石段下り、③神輿の浦安の舞、④地区の子どもの乗せ、⑤神輿の切られ、⑥祈願などの健康祈願など、沿道の観客へ投げられる。⑧水掛神事。

天王社祇園祭典

同じく7月13日、市町区・新町区に伝わる神事 天王社祇園祭典も開催された。天王社と青木神社の氏子達でつくる「あおき自治会」が主催しており、祭神は健速神社と同じく、須佐之男命である。

神輿は市町区・新町区を中心に練り歩くほか、親交のある相生区への巡行も行っている。見せ場のひとつは、天王社と相生区の「渡し」の儀。専用の渡し台に神輿を載せるまで担ぎ手が何回も往復する神事で、今年で41回目を迎えた。

神輿は市町区・新町区を再び盛大に練り歩いた後、最後は天王社へ納められる。小諸の夏を彩るもう一つのこの伝統行事は、今年も見人々の心に熱い感動を与え、無事に閉幕した。



①②相生区で行われている「渡し」の様子。③天王社による水掛神事。